

ちばの地域福祉

相手合わせで行うこと

NPO 法人長生夷隅地域の暮らしを支える会
理事長 渋沢 茂

中核地域生活支援センター「長生ひなた」「夷隅ひなた」を運営する、当法人の理事長、池口紀夫が2015年4月30日に逝去しました。享年75才でした。

1997年に、当時勤めていた法人で池口さんと一緒に、障害者の地域生活支援センターを立ち上げました。自立支援法も支援費制度もできる前。障害者福祉が措置制度で行われていた頃、地域生活を支える制度はほとんどなかった時代です。目指していたのは障害を持った方やご家族が必要とされることに一つ一つしっかりと付き合わせていただくこと。ご本人やご家族からのご要望に沿って、一緒に泊ったり、外出の付き添いをしたり、送迎をしたりと、制度にあってもなくてもお付き合いをしました。

初めての仕事に戸惑うばかりの自分に、池口さんの主張は「相手合わせでやろう」ということでした。簡単だけれど奥が深い、そして分かりやすい言葉です。相手のお話を伺うこと。お困りごとについて具体的な対応を行うこと。そしてお付き合いを続けていくこと。そんなことから始めていこうということでした。

あれから20年が過ぎようとしています。福祉の制度は大きく変わりました。措置制度から利用者本位の契約制度に変わり、様々な分野で相談機関が設置されました。地域生活を支える制度や資源も拡充しました。そんな中でコーディネートという名のもとに、制度にあてはめる支援になっていることはないでしょうか。ケアプラン作成時に支援者の考えを押し付けることはないでしょうか。「相手合わせで行うこと」の言葉を改めてかみしめる必要があるのではないかと感じています。

ちから ちばの福祉力・社会資源

千葉県ひきこもり地域支援センター

千葉県健康福祉部障害福祉課
課長 古屋 勝史

「千葉県ひきこもり地域支援センター」は、「ひきこもって数年が過ぎており働きたいけど不安」「ひきこもっている子どもとの接し方がわからない」「どこに相談してよいかわからない」といった、御本人や御家族などからの相談に応じるため、県が平成23年10月に設置した、ひきこもりの「第1次相談窓口」です。

当センターでは、社会福祉士や臨床心理士などの資格を持つ支援コーディネーターが、月曜から金曜の9時半から16時半まで、電話相談に応じています。

ひきこもり御本人（原則18歳以上）や御家族、時には知人からの相談もあり、その内容に応じて、医療・教育・労働・福祉などの関係機関を紹介し、社会へのつながりを持ってもらうための支援をしています。

相談件数は、年々増加傾向にあり、相談対象の方は男性が7割弱を占めています。ひきこもりの問題は、女性に比べ男性の方が数的に多く、また問題も難しい印象です。

相談内容に応じて紹介する関係機関としては、NPO法人等の支援機関や保健所（健康福祉センター）、地域若者サポートステーションなどがありますが、中核地域生活支援センターを紹介させていただくことも少なくありません。特に中核地域生活支援センターを紹介したケースでは、相談電話では珍しく、後日相談者から、具体的な支援を受けられたことを感謝するお電話をいただくこともあります。こうした経験は、センターとしての役割が少しは果たせたように感じられ支援コーディネーターの励みになっています。

当センターでは、今後も、相談を必要とする方と繋がれるよう情報発信を行うとともに、具体的な支援が提供されるよう紹介先の関係機関の皆様との連携を深めていきたいと考えています。



千葉県ひきこもり地域支援センター
☎043(209)2223

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

社会福祉法人さざんか会

児童発達支援センター「さざんかキッズ」(船橋市)

施設長 齊藤 幸子さん



『今回は平成27年7月1日に開園をしました』児童発達支援センター』の齊藤施設長にお話しを伺いました。

○この事業への「想い」

子どもたちが様々な経験や療育(関わり)を通して行く上で、成長・発達の可能性はとても大きいと思います。その可能性を最大限に引き出し、ひとり一人の個性を尊重し個人として的人格形成を育てて行きたい。また、保護者や家族が子育てを楽しんで毎日が送れるようサポートする事で、ご本人も安心した日々が送れるよう支援をすることも重要と考えています。(保護者支援)

○通園児定員 80名 (3歳以上の知的障害児 60名・肢体不自由児 20名)

○職員数：施設長・副施設長

(非常勤含) 保育士・児童指導員・看護師・作業療法士
・理学療法士・発達臨床心理士・言語聴覚士
・音楽療法士・栄養士・事務員 等

○委託：調理師、運転手(バス3台で送迎)



注目1「専門職による療育」

・各種療法士による専門的な療育を用いて様々な側面からの支援を行う事で、より豊かな子どもの自我の育成を重視した取り組みを行っています。



注目2「親子通園と親子分離」

・親子通園では親子の安定した関係を築き子どもの変化、成長と今、何が必要なことかを確認します。
・親子分離では「子どもの世界の広がりや充実」「自主性や社会性の育み」といった保護者以外の人との経験を増やす。というねらいが含まれています。

○日 課

8:30~10:00 順次登園

10:00~11:45 活動

11:45~13:20 給食

13:20~14:30 活動

14:30~16:10 順次降園

(毎週水曜日は13:30降園)

○年間行事

・年間を通して、季節に応じた様々な行事を企画し、子どもの情緒や発達を促せるよう取り組んでいます。

◎最後に・・・ 齊藤施設長からは保護者との信頼関係の構築は何をおいても重要な事であり、誠意をもって向き合う事でその関係は深まって来ています。子ども達の将来をイメージしながら丁寧に関わっていく中で、ひとり一人の成長をご家族と共に日々喜び合えることが職員の励みになっています。とその想いを語られていました。



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

日韓交流 あいとひかりのコンサート2015

【内 容】愛光と韓国ラファエルの家（視覚障害児者施設）は、2002（平成14）年5月に姉妹施設提携を結んで以来、さまざまな交流をとおして、福祉の向上と友好を深めてまいりました。そして、本年は施設利用者の音楽交流会を実現することになり、一般の方にも見ていただくことになりました。音楽を通じた心あたたまる交流の機会を、皆さまといっしょに楽しむことができればと思います。

『ラファエルの家』サムノリ（韓国伝統芸能） バンド（エレクトーン）演奏
『愛 光』和太鼓（めいわ） ピアノ・フルート（リホープ）
『新星'78（視覚障害者の演奏家団体）』
ソプラノ・フルート・アルトサックス・ピアノ

【日 時】平成27年11月6日（金）

開場 13:00～ 開演13:30～16:00

【会 場】四街道市文化センター大ホール（住所：四街道市大日396）

【入 場】無料

【事前申し込み及び受付（お問い合わせ）】

社会福祉法人 愛光（本部）TEL：043-484-6391

心の健康フェア in ちば 2015

『あなたらしく 私らしく』

【内 容】1. 講演「統合失調症について」

講師 石川真紀（千葉県精神保健福祉センター所属）

2. コント&トークショー「統合失調症がやってきた」※手話通訳有ります。

演者 松本ハウス（サンミュージック所属）

3. 当事者からのメッセージ

4. 精神保健福祉事業功労者表彰

5. 精神保健福祉関係団体の作品展示

6. 心の健康相談

【日 時】平成27年11月25日（水）10:00～15:00

【会 場】青葉の森公園芸術文化ホール（住所：千葉市中央区青葉町977-1）

【入 場】無料 【申 込】不要

【お問い合わせ】千葉県精神保健福祉協議会 TEL：080-7000-2093

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：夷隅ひなた（夷隅圏域）いすみ市大原8927-2

TEL:0470-60-9123

FAX:0470-60-9124

編 集：君津ふくしネット（君津圏域）富津市青木2-16-14

TEL:0439-27-1482

FAX:0439-88-1481

※内容についてのお問い合わせは、君津ふくしネット（担当：玉手）までお願いします。